

授業を受けるときに大切なことは何か

—効果の上がる授業の受け方とは—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

学生の皆さんは夏休みですね。働いている皆さんは、景気がここまで悪くなると、大変な状況の中でお仕事をなさっている方が多いと思います。しかし、あきらめたらおしまいです。これからよいことがたくさんあると思いますので、あきらめずに頑張ってお仕事に励んでいただきたいと思います。ただし、今夏は天候不順で気温の高低差が大きいですから、お身体には十分注意をしてお仕事にお励み下さい。

ところで、学生の皆さんの中には、夏休みを利用していろいろな講習会等に参加なさっている方がたくさんいると思います。そこで、勉強の仕方について少しお話をさせていただきます。具体的には、「学習効果の上がる授業の受け方とは何か」です。

2. 授業を受けるときに大切なことは何か—効果の上がる授業の受け方とは—

- (1) 授業を受けるときには、姿勢を正して、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生のお話を一言も聞き漏らさない・聞き逃さないで聴くことが一番大切であると私は考えます。また、授業中は先生が「こんなことをしなさい」といろいろな指示をさせていただきます。ですから、先生の指示に従って授業中の様々な活動、例えば理科であれば実験や観察、英語であればグループワークや役割練習、保健体育・美術・音楽・技術家庭であればそれぞれで行う作業などに積極的に参加することが、大事であると思います。
- (2) このような態度で授業に臨むと、「あっ、このことはこういうことなのか」とよくわかる・腑(ふ)に落ちる、つまり、「理解」できることが多くなります。加えて、さまざまな活動を通していろいろなことに気づき、よく「理解」でき、身に付きます。つまり、「ものごとの本質」を「理解」するのにとても役立つのが授業です。また、基礎的な能力が身に付くのも授業です。
- (3) ですから、授業を同じ受けるなら教室のどこに座るかが大事になります。もし可能であれば、先生に最も近いところ、つまり一番前に座るのがよいと思います。先生に一番近い席は特等席です。なぜなら、一番前の席で授業を受けると、自分のすぐ前で先生がお話をして下さっていますから、先生の声がよく聞き取れます。また、先生が黒板に書かれた文字や図表なども、前に遮るものがないためよく見えます。そのため、先生のお話がよくわかり、板書のすべてをノートに書き写すことができるのです。先生が自分一人に教えて下さっているように親しく感じられるのが一番前の席です。
- (4) ノートには先生がおっしゃっていることを一言も漏らさずに書き取ったり、メモに取ってからまとめたりしておくこと、また、先生が黒板にお書きになることはすべて書き写しておくことが

大切であると私は思っています。

- (5)教室の後の方に着席するとどうなるか。先生のお話していることが聞き取れなかったり、黒板に書いてあることがよく見えなかったりするとノートを取ることが非常に難しくなります。ですから、私は一番前の席に座ることをお勧めしているのです。また、一番前の席であると、先生の表情がよくわかります。先生の表情から何が大切であるかを知ることでもできるため、一番前の席に座ることをお勧めしているのです。
- (6)反対に、教室の後ろのほうに着席すると、先生の声が聞き取りにくくなることがあります。また、前のほうに着席している人の身体に隠れて、黒板に書いてある内容がよく見えないこともあります。さらに、先生の表情も遠くてよく見えないことが多いので、何が大事かがわからないこともあります。このように、一番前に着席したときと、後ろのほうに着席したときとでは、授業中の理解に随分と大きな差が生じます。
- (7)着席をする場所の大事さを一番よく知っているのは、有名予備校の大学受験生です。また、入学が難しいとされる大学の大学生です。これらの受験生や大学生は、成績のよい人から順に前のほうの席にずらっと座っています。例えば、東京大学の法学部の学生などは、成績がトップクラスの人ほど一番前の席に着席したいため、一番先に教室に到着しています。このように、成績のよい人ほど予備校や大学に早く行って一番前の席に座るのは普通のことです。
- (8)なぜこのようにするのかというと、成績のよい人ほど真剣に勉強に取り組み、誰よりも早く教室に入って教科書・教材・ノート等の今までに勉強してきたところに目を通して復習するからです。また、今日の授業の範囲を静かに読んで予習するからです。
- (9)私がこのようなことを知っているのは、私が大学に入る年に大学紛争があり、東京大学や東京教育大学(現在の筑波大学)をはじめ、いくつかの大学の入学試験がなかったためです。私はたまたま浪人をせず現役で慶應義塾大学法学部の法律学科に入学しましたが、東京大学の文Iつまり法学部に進学を希望していた方々は入学試験が行われなかったために、慶應義塾大学の法学部法律科をはじめいろいろな大学に入学しました。
- (10)その同級生たちと一緒に学ぶことになって驚いたことは、授業の始まるかなり前から教室に入って前のほうの席にずらりと並んで座り、黙々と勉強していたことです。この光景を見て、成績のよい人ほど早く教室に来て勉強していることがわかりました。
- (11)それから、私の尊敬する経済界の方に栃木富士産業の会長をされている栗原義彦さんがいらっしゃいます。栗原さんは、いろいろな勉強会に出られるときは必ず30分から1時間前に会場に着き、一番前の席に座られて、その日の資料に目を通していらっしゃいます。勉強会中は講師の先生のお話を熱心に聴き、それをメモに取り、そして、大事なところは質問なさっておられます。
- (12)このように、成績のよい学生や皆から尊敬されるような経営者の方々は、早く教室や会場に来て一番前の席に座り、予習・復習をしたり資料に目を通したりしています。そして、授業やお話を熱心に聴いて、大事なところは質問しています。
- (13)ですから、皆さんにも、授業を一番前の席で聴いて、「ああ、このことはこういうことなのだ」と理解することをお勧めします。

3. おわりに

今日は、「授業を受けるときに大切なことは何か」をテーマに、効果の上がる授業の受け方についてお話を致しました。

— 2012年4月27日校正、林明夫 —